

☆真珠湾攻撃から七十年

―歴史から学び、後世へ最良の贈り物（平和憲法）を残そう―

☆一九四一年十二月八日

◆今から七十年前の十二月八日、日本は真珠湾奇襲により全く無謀な太平洋戦争へのためのり込んで行きました。

◆その理由は、ここで米国に屈する事は、これまで（侵略によって）得てきたアジアにおける権益を失うことになるという認識でした。

☆「自衛」という名の侵略戦争だった

◆この戦争を日本の国益を守る「自衛戦争」だと主張する人々がまだ存在します。歴史上、「これは侵略戦争です」と言って戦争を始めた国はありません。みな「これは自衛戦争だ」と言って戦争を始めます。

◆中国をはじめとするアジア諸国への日本軍の侵攻、宣戦布告なき真珠湾奇襲・これらはどう見ても「自衛戦争」とは言えないものでした。

☆新しい平和憲法ができた

◆アジア太平洋戦争は、自国民三百万、アジアの国民二千万の死者の山を築いて一九四五年八月十五日、日本は敗戦を迎えました。

◆そして戦後、この血潮と引き替えに世界に誇る「平和憲法」という新しい命がこの国に誕生したのです。

☆後世への最良の贈り物―平和憲法

◆あの誤った戦争の歴史から学ぼうとせず、現在の平和憲法を再び戦争のできる憲法に変えようという動きがあります。憲法審査会再開も成り行きによつては心配です。

◆私たちが後世に残して行くべきものは何でしょうか。戦争のできる国ではなく、戦争をしない平和な国ではないでしょうか。

◆そのために私たち浜松市憲法を守る会は、戦争を放棄し武装を禁じた平和憲法こそ後世への最良の贈り物だと確信しています。この憲法を守ることを訴えて四五年、来年は五百五十回を目指して歩き続けます。

二〇一一年十二月十一日（日） 第五二八回憲法を守る平和行進
浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市中央区紺屋町三〇一―一五

★月例護憲平和行進 毎月第二日曜日・午後一時・浜松市役所正面玄関集合